

オノマトペにおける音と意味の関連

—隣接するオノマトペの意味の重なり—

中里 理子

1. 本稿の目的

オノマトペは対象の聴覚的印象を言語化した語群であり、言語音(音韻)と意味の結びつきに必然性が感じられ、「理性よりも感情に訴えかけ」¹⁾る表現、すなわち感性的表現と捉えられている。音と意味の結びつきに必然性が感じられる場合、その結びつきは密接であると考えられる。だが、オノマトペにおける音と意味の関係を見ると、多義であること、語義変化を起こすこと、音や語形の隣接するオノマトペが類似した意味を表すことが指摘できる。ある音韻がイメージさせる意味の範囲は広く、周辺の音韻の意味領域と重なり合っているのである。

本稿では、オノマトペにおける音と意味の結びつきを考えるために、音韻と語形の隣接性という観点から、オノマトペ間の意味領域の重なりを具体的に見ていく。検討対象として、明治から昭和20年代にかけてのオノマトペの中から、〈ポク [poku]〉系統のオノマトペと、音の隣接する〈ポカ [poka]〉系統、〈ポコ [poko]〉系統のオノマトペを取り上げる。これらは [pok-] が共通し、語基末の母音だけが異なる、隣接した音韻のオノマトペである。各音韻で語形の異なる [ABAB] [ABり] [AッBり] [ABン] を取り上げ、意味の重複と分担を見た後、隣接するオノ

マトペ間の意味関係を見る。用例は「青空文庫」から収集した²⁾。

これらの具体例から、同じ音韻体系の中で語形による意味の分担が見られること、音韻の隣接する複数のオノマトペ間で意味の重複が見られることを明らかにする。さらに、慣用的に使われることで意味が定着し、感性の表現から一般語彙的な表現へと変わることにも触れる。

2. 〈ポク〉系統のオノマトペ

2.1 意味分類と用例

〈ポク〉を語基に持つ「ポクポク」「ポクリ」「ポックリ」³⁾「ポクン」について擬音語(音)と擬態語(態)に分けて意味分類をした後、いくつかの用例を挙げる。擬音語と擬態語の区別は明確ではないが、意味の広がりを見るためにあえて分類した。例えば「ポクポク」は靴音(擬音語)とともに歩く様子(擬態語)も表すが、便宜上、基本義と思われる擬音語に統合して示す。引用文の下線は執筆者による。Mは明治、Tは大正、Sは昭和を表す。

【ポクポク】41例

音：①歩く・行く(人の足音)	22例
②馬の足音	2例
③木魚を叩く・(何かを)叩く	7例
④嘔む	3例
態：⑤土などが乾いている様子	7例

例1 親切な白翁堂は藜あかぎの杖をついて、
伴藏と一緒にポク△出懸けて、萩原
の内へまいり、

(三遊亭圓朝：怪談牡丹灯籠、M17)

例2 ここの巡査の中には(中略)、ポク
ポクと親しみのある靴の音をさせる。

(島崎藤村：千曲川のスケッチ、M44)

例3 三匹の馬は、ポクポク、波の飛ぶ江
を歩いていくのですが、

(林芙美子：大島行、S8)

例4 記者は槌をとって木魚をたたいた。
ポクポクポクポク、なかなかその
調子がいい。

(田山花袋：田舎教師、M42)

例5 下にこんもり、ぼくぼく乾いた土
が盛り上っていて

(宮本百合子：伸子、T13~15)

【ポクリ】24例

音：①なぐる・ぶつ 1例

態：②乾いた土・砂煙が立つ 2例

③死ぬ・倒れる 13例

④頭を下げる・上体を曲げる 4例

⑤折る 1例

⑥欠ける・外れる 3例

例6 其の瞬間棒はぼくりと犬の頭部を
撲った。(長塚節：太十と其犬、M43)

例7 御亭主殿が急に患いついてポクリ
と死んでしまいました」

(中里介山：大菩薩峠 鈴鹿山、T2~3)

例8 主婦の前に、おくめは、先ずぼくり
と頭を下げた。

(宮本百合子：黄昏、T11)

例9 山の頂がぼくりと欠けて四面から
煙が出る。(漱石：野分、M40)

【ポックリ】67例

音：①靴音・下駄の音 2例

態：②死ぬ・倒れる 38例

③頭を下げる・腰を下ろす 8例

④折れる・折れ曲がる 5例

⑤水に浮かぶ・潜る 5例

⑥現れる 2例

⑦欠ける(一部がなくなる) 3例

⑧穴があく 1例

⑨目を開く・口を開ける 2例

⑩膨らむ 1例

例10 長靴の音がぼっくりして、銀の剣
の長いのがまっすぐに二ツならんで輝
いて見えた。(泉鏡花：化鳥、M30)

例11 八月末から腸チブスにかかって
ぼっくり逝ってしまったのだった。

(豊島与志雄：道連、T13)

例12 友達は嬉しさうに笑つて、ぼつく
り頭を下げた。

(水野仙子：四十餘日、M43)

例13 すると、やがて大きなあわがひと
つぼっくりと浮かんで、ぽっと消える
と、(宮島資夫：清造と沼、S3)

例14 短い脚が動いている。と思った隙
もなくポックリと障子へ穴があいた。

(国枝史郎：大捕物仙人壺、T14)

例15 宮坂は眼をポックリ開いて、さも
決心したらしい顔付きで言った。

(岡本かの子：ガルスワーシーの家、S9)

例16 子供らは口をポックリと開けて
みな彼を見てみた。

(横光利一：神馬、T6)

例17 ぼつくりふくらんだ柳の芽のし
たに、(萩原朔太郎：月に咲える、T6)

【ポクン】3例

音：①殴る・叩く 1例

②モーターボートの音 1例

態：③死ぬ 1例

例18 詩人はぼくんとひとつ叩頭をして、（岡本かの子：狂童女の恋、S9）

例19 彼の死ぬときは、ポクンと、自分でも知らずに死んでいるだろう。

（中島敦：悟浄歎異、S17）

2.2 語形による意味の重複と分担

稿末資料1の表1に、〈ポク〉系統の語形と意味の関連を整理した。4つの語形に共通する意味はなく、「ポクリ」と「ポックリ」に重複する意味が多いことから、「ポクポク」と「ポクリ／ポックリ」とで大きく意味分担されていたと見られる。

「ポクポク」が表す木魚の音は、他の語形では使われておらず、言語音と意味の結びつきが密接な例である。木魚の音を「ポクポク」で専ら表し⁴⁾、意味が定着したと考えられる。また、「ポクポク」は歩く様子、土地の乾いた様子を表す例が多いが、「歩く」例が他のオノマトペにはほとんど見られず⁵⁾、現在では使わないことから、当時の土の道と関連が深いオノマトペと思われる。「ポクポク」は靴音・足音(例2)を表すとともに、歩く様子(例1)にも使われていたが、当時の感性が生きたオノマトペであったために、時代とともに使われなくなったのだろう。

「ポクリ」「ポックリ」の主な意味は〔死ぬ〕〔頭を下げる〕である。例7と例11、例8と例12に見るように、2語は同じ意味であり、「ポックリ」に挿入された促音が強調の意味を表す⁶⁾など、微妙な違いがあるだけである。〔頭を下げる〕表現が「ペコリ」等に変わったため、「ポクリ」は使われなくなったが、「ポックリ」は〔死ぬ〕表現として定着している。

3. 〈ポカ〉系統のオノマトペ

3.1 意味分類と用例

前項同様、「ポカポカ」「ポカリ」「ポックリ」「ポカン」の意味分類を示し、用例を挙げる⁷⁾。

【ポカポカ】161例

- 音：①馬の足音 10例
- ②靴の音 2例
- ③殴る 27例
- ④叩く 1例
- 態：⑤暖かい・日が当たる 109例
- ⑥水や空に浮く・煙が漂う 9例
- ⑦穴が開く 3例

例20 馬のぼかぼかと鳴るひずめの音がまことに快い！

（牧野信一：競馬の日、S4）

例21 技師は（中略）少しく窘んで、浮足の靴ポカポカ、

（泉鏡花：露肆、M44）

例22 続けざまにポカポカと拳の雨が来ましたから

（中里介山：大菩薩峠 駒井能登守、T7）

例23 そして炬燵の中がぼかぼかしてくると、（豊島与志雄：不肖の兄、T14）

例24 溝川の水などが（中略）、沈んでいた芥もぼかぼかと浮かびだしてくるような心持ちになります。

（高浜虚子：俳句とはどんなものか、T2）

例25 直径が十メートルから二十メートルもの大穴がポカポカあいているんだぜ。（海野十三：空襲下の日本、S8）

【ポカリ】86例

- 音：①靴の音 1例
- ②殴る・人を叩く 33例

③叩く・割れる音	5例
④飛び込む	1例
態：⑤日が照る	1例
⑥明かりがつく	4例
⑦死ぬ	1例
⑧水や空に浮く・漂う	12例
⑨背景から浮かぶ	1例
⑩穴があく・空間ができる	21例
⑪目を開ける・目を覚ます	4例
⑫口を開ける	2例
例26 <u>ばかりばかり</u> 自分の靴の音をきいて歩いて居るうちに、 (水上瀧太郎：大阪の宿、T14~15)	
例27 自分の手で自分の頭を一つ <u>ポカリ</u> 殴つた。 (牧野信一：爪、T8)	
例28 細い電柱の上の外燈と、もう一本の列車のための信号燈が <u>ポカリ</u> と灯る。 (三好十郎：地熱、S12)	
例29 血便が、三四日續いた。それが止んだ時分に <u>ポカリ</u> とまあるのではないかと (葛西善三：血を吐く、T14)	
例30 早くも船頭親子は、(中略)十間ばかり上流へ <u>ポカリ</u> と浮き出して (中里介山：大菩薩峠 白雲、S8)	
例31 怪物の腹のところに、 <u>ポカリ</u> と大きい穴があきました。 (海野十三：崩れる鬼影、S8)	
例32 やがて <u>ポカリ</u> と眼を開いた翁は、(中略)夏の日の傾き行く空を見て (木下尚江：臨終の田中正三、S8)	
例33 構えた刃はダラリと垂れて、意気地が無くも、揃って <u>ポカリ</u> と口さえ開いているのです。 (野村胡堂：奇談クラブ 枕の妖異、S22)	

【ポッカリ】176例

音：なし

態：①暖かい	4例
②明かりがつく・明るい	15例
③死ぬ	2例
④水や空に浮く・浮かぶ	50例
⑤背景から浮かぶ・現れる	31例
⑥沈める	1例
⑦消える	1例
⑧外れる・欠ける	1例
⑨穴が開く・空間ができる	40例
⑩戸・扉・窓が開く	9例
⑪目を開ける・目を覚ます	19例
⑫口を開ける	2例
⑬膨れる	1例
例34 打晴れた初春の <u>ぽっかり</u> した暖みなのに、祖母は炬燵をいれさせて、 (豊島与志雄：同胞、T13)	
例35 門燈の <u>ぽっかり</u> 点いた格子門があつた。 (田中貢太郎：黒い蝶、T12)	
例36 私が <u>ぽっかり</u> 死んでも、その代金で、 (種田山頭火：行乞記(三)、S7)	
例37 大きな大きなあわがひとつ <u>ぽっかり</u> と浮かび上がったのを (宮島資夫：清三と沼、S3)	
例38 大きい硝子窓には盥が入りそうな丸い大きい穴が <u>ポッカリ</u> と明いているのです。 (海野十三：崩れる鬼影、S8)	
例39 そのドアーが、灯もつけずに、 <u>ぽっかり</u> と内側へ引開けられた。 (蘭郁二郎：鱗粉、S12)	
例40 うとうとと少しばかりの嗜眠のあいだをさまようたり、また <u>ぽっかり</u> 目をさましたりしていた。 (室生犀星：香炉を盗む、T4)	
例41 寝間着の背中では <u>ポッカリ</u> とふくれて居た。 (宮本百合子：千世子、T3)	

【ポカン】108例

音：①殴る・人を打つ	4例
②物を叩く・落とした音	2例
態：③空に浮かぶ	1例
④消える	2例
⑤穴が開く・空間ができる	1例
⑥目を開ける	3例
⑦口を開ける	22例
⑧ぼんやりする・放心	73例

例42 手に奮撃して来た竹刀を受け損じて、ポカンといふ響と共にお面を取られた。(長塚節：撃剣興行、M36)

例43 中天にポカンと輝く晝の日の黄金の、(中略)そばに輝く日中の金星も見つけた。(福士幸次郎：展望、T8)

例44 河童のぬめりで腐って、ポカンと穴があいたらしい。

(泉鏡花：貝の穴に河童の居る事、S6)

例45 ポカンと眼を開けて(中略)踊りに見惚れていた彼は、

(葛西善三：子をつれて、T7)

例46 君達はポカンと口を開けて何に見惚れてるんだね。

(薄田泣菫：茶話、T5)

例47 ワーシカは、ポカンとして、しばらくそこに不思議がりながら立っていた。

(黒島伝治：国境、S6)

3.2 語形による意味の重複と分担

稿末資料1の表2に、〈ポカ〉系統の語形と意味の関連を整理した。4語ともに使われているのは「水や空に浮かぶ」〔穴が開く〕である。前者について例24、30、37、43を比較し、後者について例25、31、38、44を比較すると、「ポカポカ」は反復・複数の印象が、「ポカリ」は一回性・完了の印象が、「ポッカリ」は「ポカリ」の強調・わずかな時間的余裕の印象

が、「ポカン」は一回性・余韻の印象があり、他のオノマトペ一般と同様に語形による使い分けが見られる。

他に複数の語形で重複し、かつ用例数が多いのは、擬音語の〔殴る・叩く〕(例22、27、42)である。素手の場合に「ポカポカ」「ポカリ」が多用され、2語の間には語形による意味の使い分けがある。〔足音〕〔暖かい〕〔明るい〕〔死ぬ〕〔現れる〕〔消える〕〔目を開ける〕〔口を開ける〕も複数の語形で使われており、〔死ぬ〕〔消える〕以外は1つの語形の用例数が他の語形よりはるかに多く、主となる語形であることが特定できる。〔死ぬ〕〔消える〕ほどの語形も用例が少なく、主となる語が他の系統にあることがわかる。

以上のことから、語形間で意味の重複がいくつかあるが、それらを除いては概ね意味が分担されていると言える。用例数が多い場合、そこから意味が広がることも見て取れる。例えば、「ポッカリ」は例39のように扉や窓を開ける例が多く見られる。「ポカリ」は「殴る」と共起する(例27)以外に、「ポカリとやられる／食わせる／参る／くる／きめる」などの慣用的な使用があり、拳固で殴るオノマトペとして定着している。

また、〔目を開ける〕は「ポッカリ」が、〔口を開ける〕は「ポカン」が多用されており、それぞれに意味の転化が見られる。「目を開ける」は「目を覚ます」(例40)という意味に発展し、〔口を開ける〕は「ポカンとする」(例47)の形で〔ぼんやりする・放心する〕意味で多用され、口を開ける状態からメトニミーによる意味の転用⁸⁾が見られる。このような意味の広がり、その語形に意味が固定化したこと

の現れと言える。

た。(本庄陸男：石狩川、S14)

4. 〈ポコ〉系統のオノマトペ

4.1 語義と用例

前項と同様に、「ポコポコ」「ポコリ」「ポッコリ」「ポコン」の意味分類を示し用例を挙げる

【ポコポコ】24例

- 音：①人が歩く 2例
- ②馬の足音 3例
- ③根太板等の音、叩く音 7例
- 態：④砂煙が立つ・乾いた土地 5例
- ⑤暖かい 4例
- ⑥現れる 1例
- ⑦でこぼこする 2例

例48 ぼこ、ぼこ来るのは木馬さん
(村山籌子：チユウちやんのおたん
じゃうび、T15)

例49 黒吉は、(中略) ぼこぼことした白
茶けた埃っぽい道を、当てもなく町端
れの方に歩いてた。
(蘭郁二郎：夢鬼、S11)

例50 「ポケットの中かい？ そりゃあ、
あったかいよ。ぼこぼこだよ。こたつが
はいってるようなんだ」
(新見南吉：歌時計、S17)

【ポコリ】7例

- 音：なし
- 態：①死ぬ 1例
- ②落ちる・欠ける 6例

例51 二十五年の九月九日にぼこりと
やられました。今日では、もっと治療
の方法もあったことかと思いますが、
(高村光雲：幕末維新懐古談、T11~12)

例52 堅い岸べもぼこりと削りとられ

【ポッコリ】8例

- 音：なし
- 態：①死ぬ 2例
- ②(背景から)浮かぶ 1例
- ③落ちる 2例
- ④穴が開く 1例
- ⑤膨れる 2例

例53 心臓病でポッコリと亡くなって
(甲賀三郎：黄鳥の嘆き、S10)

例54 おどけた一人の娘つ子が、灰色の
中に、ぽっこり浮んだ。
(久坂葉子：灰色の記憶、S25)

例55 顔のまん中に、ぼっこりと、大き
な穴があいて
(沖野岩三郎：にらめつらの鬼瓦、
T14)

例56 間もなく自分の腕は(中略) ポツ
コリと転げ落ちた。
(牧野信一：冬の風鈴、T15)

例57 もう少しぽっこり厚みがほしい。
(宮本百合子：日記、T13)

【ポコン】18例

- 音：①叩く・跳ねる 4例
- ②泡が立つ 2例
- 態：③現れる 1例
- ④穴が開く 4例
- ⑤へこむ・くぼむ 4例
- ⑥盛り上がる・膨れる 3例

例58 腹が(中略)セルロイドの人形の
腹のように張りきって、叩いたらぼこ
んぼこんと音を立てて、
(豊島与志雄：幻の彼方、T11)

例59 ポコンと穴があいて、血がいくら
でも出る。

- (長谷川時雨：牢屋の原、S10)
 例60 脚がぶくぶくにはれて、向う脛を
 指で押すと、ポコンと引っこんで、
 (黒島傳二：浮動する地価、S5)
 例61 ウェーヴを弾ね除けた額は、円く
ぽこんと盛上って、
 (岡本かの子：河明り、S14)

4.2 語形による意味の重複と分担

稿末資料1の表3に、〈ポコ〉系統の語形と意味の関連を整理した。他の系統より用例数が少ないためか、語形間の意味の重なりは少なく、語形により意味が分担されていることが窺える。複数の語形で重なる場合は、〔叩く〕〔落ちる〕に見るように、用例数の多い語形が主に使われ、他の語形は意味を微妙に使い分ける際に用いられている。〔膨れる〕は、他の系統の語も用例数が少なく、語基全体で用例数を見ると、〈ポコ〉系統が主たるオノマトペとなっていると考えられる。

5. 隣接オノマトペに見る意味の重複

稿末資料2に、語基〈ポク〉〈ポカ〉〈ポコ〉で意味の重複するものを整理した。これを見ると、多くの意味が2系統以上で重なっていることがわかる。音韻の隣接するオノマトペどうしで意味領域が大きく重なり合っているのである。

擬音語は音の印象を写したものであり、音の違いが反映されていると思われる。〔馬の足音〕を例3、20、48で比べると音の違いが微妙に表されている。〔靴音〕〔殴る〕〔打つ〕音も同様である。〔殴る〕の「ポカポカ・ポカリ」、木魚を叩く「ポクポク」は、他の語基より用例数が多

く、一般的用法として意味が定着している。

一方、擬態語は語基による意味の違いが小さい。例えば、〔死ぬ〕は「ポクリ・ポックリ・ポクン」「ポカリ・ポッカリ」「ポコリ・ポッコリ」と3つの語基にわたっているが、例7、11、19、29、36、51、53を比較すると、語形による微かな違いはあっても、語基による意味の違いは見出だせない。「ポックリ」38例、「ポクリ」13例、他は1～2例であることから、「ポックリ・ポクリ」が主たるオノマトペとわかる。「ポックリ死ぬ」が多用され慣用的用法として定着したが、その過程では、他の語基が同じ意味として少数例ながら使われていた。ここに音と意味の結びつきの曖昧さが感じられる。

次に、語形による使い分けを避けて、複数の語基を同じ語形で比較してみる。例えば〔暖かい〕の例23「ポカポカ」と例50「ポコポコ」、〔浮かぶ〕の例13「ポックリ」と例37「ポッカリ」を比べると、意味の違いはほとんど感じられない。〔現れる〕の「ポッカリ」「ポッコリ」、〔目を開ける〕の「ポックリ」「ポッカリ」も同様である。一方、〔穴が開く〕の例14「ポックリ」、例38「ポッカリ」、例55「ポッコリ」は、穴の大きさが母音により異なる(a>o>u)ようにも感じられる。例外もあるが、大きさが関わる意味では、〈ポカ>ポコ>ポク〉の順に大小のイメージを表し分けられる。大きさが関わない意味では母音の違いは感じられず、語基を越えて意味の重複があると言える。

資料2を見ると、どの意味も〔AッBリ〕型の重複が多い。「ポックリ」の〈k〉につく母音の違いが、発音上さほど感じられ

ないためではないか。取り上げた語基以外に〈ポキ〉〈ペコ〉〈パカ〉〈プカ〉等の系統も意味が重なることから、〈p-k〉という子音によって意味の大きな印象が決まり母音の揺れが起こるとも考えられるが、音韻を考察する資料が十分ではなく、ここでは立ち入らない。

6. まとめ

〈ボク〉〈ポカ〉〈ポコ〉系統のオノマトペに関して、同じ語基の中で語形による意味の分担があることが確認できた。各語形に中心となる意味があり、その意味が他の語形と重複するものは少ない。重複した場合には、同じ意味の中で語形による微妙な使い分けがある。

3系統を比較すると、語基間で意味の重複が多数見られた。擬音語は音の使い分けがされたと考えられるが、擬態語は、意味が1種類の語基に定着する過程で母音の揺れが見られた。音と意味のつながりの曖昧さを感じさせる。

一方、音と意味が密接につながった場合に慣用的用法が生まれる。「ポックリ死ぬ」「ポカリと殴る」「ポカんとする」のように、多用され慣用的用法になると、オノマトペの持つ聴覚的印象が語の意味として定着し、音象徴性が薄れ一般語彙化する。これに対し、「ポクポク歩く」「ポクリと・ポックリと頭を下げる」「ポッカリと目を覚ます」「ポッカリと戸を開ける」のように、多用されながらも現在では使われない例もある。これらは一般語彙化せず、音象徴性が失われていないように思われる。

また、明治から昭和前半に多く見られた〈ボク〉系統の語が、現在では固定化し

た「木魚の音」「死ぬ」描写しか使われていない。これは、時代の感性と結びついたオノマトペがあり、時代とともに移り変わっていくことを表しているのであろう。

注

- 1) 『国語学大事典』「擬声語」の項の記述による。執筆者は山口仲美。
- 2) インターネット電子図書館「青空文庫」(<http://www.aozora.gr.jp/>)により、2015年2～3月に調査した。抽出範囲は明治期から昭和29年までである。意味分類から外れる例は作家独自の使い方と考え、抽出しなかった。
- 3) 名詞「ぼっくり(木履)」は取り上げない。
- 4) 木魚の音は他に「ポコポコ」に1例見られただけである。
- 5) 他に「ポカポカ」2例、「ポカリ」1例が靴音を表している。
- 6) 田守・スコウラップ『オノマトペ—形態と意味』(pp.26-27)、飛田良文・浅田秀子『現代擬音語擬態語用法辞典』等を参照した。以下の項目の語形比較も同様である。
- 7) 意味分類は前項に合わせており、用例の多い順ではない。
- 8) 意味変化に関して、池上嘉彦『意味の世界』pp.145-147を参照した。

引用文献

- 池上嘉彦 1978『意味の世界』日本放送出版協会
田守育宏／スコウラップ 1999『オノマトペ—形態と意味—』くろしお出版
飛田良文・浅田秀子 2002『現代擬音語擬

態語用法辞典』東京堂出版
山口仲美 1980「擬声語」の項。『国語学大辞典』東京堂出版

付記

シンポジウムでは多くの先生方から貴重なご指摘・ご教示を賜り、感謝申し上げます

ております。統語的観点からのご意見も頂戴し、品詞や副詞の助詞等を調査しましたが、特筆すべき特徴は見出だせませんでした。この点も含め、先生方のご意見を十分に生かせず、考察が足りない点をご寛恕ください。

(白百合女子大学)

稿末資料1 語形による意味の重複と分担
(数字は用例数。4例以下は○、5例以上は◎を付す。)

表1【ポクポク／ポクリ／ポックリ／ポクン】

	ポクポク	ポクリ	ポックリ	ポクン
歩く(人の足音)	22 ◎	—	2 ○	—
馬の足音	2 ○	—	—	—
叩く(木魚)	7 ◎	—	—	—
嘯む	3 ○	—	—	—
殴る・ぶつ	—	1 ○	—	1 ○
乾いた様子	7 ◎	2 ○	—	—
死ぬ	—	13 ◎	38 ◎	1 ○
頭を下げる・お辞儀	—	4 ○	7 ◎	—
折れる・折れ曲がる	—	1 ○	5 ◎	—
水に浮かぶ	—	—	4 ○	—
現れる	—	—	2 ○	—
欠ける・外れる	—	3 ○	3 ○	—
穴が開く	—	—	1 ○	—
目を開ける・口を開ける	—	—	2 ○	—
膨れる	—	—	1 ○	—

表2【ポカポカ／ポカリ／ポッカリ／ポカン】

	ポカポカ	ポカリ	ポッカリ	ポカン
人の足音	2 ○	1 ○	—	—
馬の足音	10 ◎	—	—	—
殴る・人を叩く	27 ◎	33 ◎	—	4 ○
叩く・割れる	1 ○	5 ◎	—	2 ○
暖かい	109 ◎	—	4 ○	—
明りがつく・明るい	—	4 ○	15 ◎	—
死ぬ	—	1 ○	2 ○	—
水や空に浮かぶ	9 ◎	12 ◎	50 ◎	1 ○
背景から浮かぶ・現れる	—	1 ○	31 ◎	—
消える	—	—	1 ○	2 ○
欠ける・外れる	—	—	1 ○	—
穴が開く・空間ができる	3 ○	21 ◎	40 ◎	1 ○
戸・窓が開く	—	—	9 ◎	—
目を開ける	—	4 ○	19 ◎	3 ○
口を開ける	—	2 ○	2 ○	22 ◎
放心する	—	—	—	73 ◎
膨れる	—	—	1 ○	—

表3【ポコポコ／ポコリ／ポッコリ／ポコン】

	ポコポコ	ポコリ	ポッコリ	ポコン
人の足音	3 ○	—	—	—
馬の足音	2 ○	—	—	—
叩く・跳ねる	7 ◎	—	—	4 ○
泡の音	—	—	—	2 ○
砂煙・乾いた様子	5 ◎	—	—	—
暖かい	4 ○	—	—	—
死ぬ	—	1 ○	2 ○	—
背景から浮かぶ・現れる	1 ○	—	1 ○	1 ○
落ちる・欠ける	—	6 ◎	2 ○	—
穴が開く	—	—	1 ○	4 ○
へこむ	—	—	—	4 ○
膨れる・盛り上がる	—	—	2 ○	3 ○

*表1～3とも、紙幅の都合上、いくつかの意味を省略している。

*表1「ポッコリ」の〔水に浮かぶ〕4例は、意味分類に含めた「潜る」1例を除いたものである。

稿末資料2 音韻の隣接するオノマトペと意味の重複

*〈ポク〉〈ポカ〉〈ポコ〉系統のうち2系統以上で用例が見られる意味を抜き出した。

〔擬音語〕 足音(靴音)	ポクポク・ポックリ／ポカポカ・ポカリ／ポコポコ
馬の足音	ポクポク／ポカポカ／ポコポコ
叩く	ポクポク(木魚)／ポカポカ・ポカリ・ポカン／ポコポコ・ポコン
殴る・打つ	ポクリ・ポケン／ポカポカ・ポカリ・ポカン
〔擬態語〕 乾いた様子	ポクポク／ポコポコ
暖かい	ポカポカ・ポッカリ／ポコポコ
死ぬ	ポクリ・ポックリ・ポケン／ポカリ・ポッカリ／ポコリ・ポッコリ
浮かぶ	ポックリ／ポカポカ・ポカリ・ポッカリ・ポカン
現れる	ポカリ・ポッカリ・ポカン／ポコポコ・ポッコリ・ポコン
欠ける	ポクリ・ポックリ／ポッカリ／ポコリ・ポッコリ
穴が開く	ポックリ／ポカポカ・ポカリ・ポッカリ・ポカン／ポコン
目を開ける	ポックリ／ポカリ・ポッカリ・ポカン
口を開ける	ポックリ／ポッカリ・ポカン
膨れる	ポックリ／ポッカリ／ポッコリ・ポコン